

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の人間性を尊重し、生活の助長、心身機能の維持向上をはかり、当法人の施設、病院、近隣の施設等と連携をはかりながら、安心して生活できる施設」という独自の理念をつくっている。	
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、談話室、スタッフルームに理念を明示し、名札の裏にもプリントしたものを入れ、常日頃から利用者が、その人らしさを失わずに生活できる様に、理念を意識して介護にあたるようにしている。	
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をホームの見やすい所に表示して、日常的に生かせるようにし、家族や地域の人にもわかりやすいように浸透を図っている。	○ 地域の中で、その人らしさを失わず生活するという地域密着型サービスという言葉がいろいろと聞かれ、理念の大切さを家族の方からもなげかけられ、その都度、説明又、陶芸展示会、運営推進会議等でもパンフレットを準備し説明している。
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、買物などで近隣の方にお会いした時は、積極的に挨拶、会話をされている。隣接するデイサービス、託児所との交流を多く図っている。季節の野菜をいつも頂いている。	○ 託児所の行事に参加(芋ほり、運動会、散歩)。デイサービスとの交流会。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会には参加していない。年1回の陶芸展示会に近隣の方が多数見学に来られ、利用者の方も会場で作品の説明をされたりと、交流を図っている。当法人の施設との合同行事に参加している。	○ 町の行事、文化祭など情報収集し参加できるようにしたい。陶芸展示会での声かけ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当法人のデイサービスとの交流、合同行事などの協力的な関係ができている。管理者は独居高齢者の訪問ボランティアを行っている。管理者は認知症サポーター100万人キャラバン、キャラバンメイト養成研修、GH部会、スタッフセミナー等参加し、関わりながら、認知症ケアに努めている。	○	他の施設での行事のボランティアなどできる機会があれば参加してみたい。当法人内での勉強会、研究発表で認知症ケアについて、テーマを決め、発表している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解するためにも、スタッフ一人一人に自己評価を記述し、それを皆で確認しあっている。結果については、評価を受け止め、改善に向け話し合い、各自意識を持って取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者、家族、行政職員、民生委員、地区の区長、老人クラブ代表、当法人の看護部長、職員等で会議を行っている。年間計画を立て、職員が交代で司会、進行を行っている。入居者全員参加の「入居の思い」のテーマ時は会議そのものが一体化し、好評であった。	○	入居者やホームの状況報告の他に、テーマを決め、参加者からの意見や質疑応答、要望等サービスの質の向上に努めている。消防署立会いのもと、夜間設定の避難訓練を行った。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃気軽に相談できる体制にある。(社協、健康福祉課、包括支援センター) 陶芸作品展の会場を町の学習館を借りているので、準備～後片づけと町の職員の方も多数見学、協力していただき、陶芸を通じての会話、質の向上へと協力を得ている。管理者は町の独居老人の訪問ボランティアに参加。担当職員以外でも日頃から気楽に相談できる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族や地域の方々へ情報提供できるように窓口パンフレットを準備、又見やすいところに表示している。町や福祉から発行されているパンフレットを準備、外部への研修会に参加、制度への理解を深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修、勉強会に参加し理解を深めるようにしている。抑制にあたる施設も夜間以外は行っていない。	○	「身体拘束ゼロへの手引き」「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」…資料あり。言葉での暴言、入居者、スタッフ間との見逃されることがない様、又あればミーティングをするようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	当法人の病院、施設を利用されている方には職員が面会に行き、少しでもなじみの関係がとれるよう努力している。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	難聴のため意思疎通がうまくとれない入居者に対しては、正面から向きあってお互いの誤解がとれ、泣いて和解、より一層の信頼関係ができています。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	家族会参加へのアンケート行っただが、実行までいかなかった。(曜日・時間)
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	定期的計画をし、個人面接を充実させたい。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	入居者に順応出来る体制であるが、家族の変化に気付不足情報をいただける様、コミュニケーションし、受容を高める環境作りしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	停年、新入職員配置時、じっくり時間をかけオリエンテーションは出来ている。停年時は自然にまかせ、挨拶はされていない。	○	男性3人職員配置時、利用者が困惑しない体制を取りたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢制限等、性別にもこだわらず面接している。	○	社会参加は声かけでは、参加意欲難しい。年頭計画にて具体的月日目標を確保したい。
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	あまり出来ていない。新聞切り抜き等で、情報共有。	○	外部講習会等利用したり、運営推進会議等にて一般社会からの情報をもらい、向上させたい。
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	デイサービス等の交流等で他スタッフとの関わりで学んでいる。院内勉強会、院外研修と機会があれば参加している。	○	病院での実習は考えている。少しでも病院経験、大施設経験者も異動対象にはしている。
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域での部会等には輪番参加。	○	比較的積極的に参加しているが、全く及ばない方へのアプローチ計画実施、考察必須である。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安旅行、忘年会、食事会、歓送迎会などに参加し、交流を持つ事で悩みなど相談でき、ストレス軽減を図っている。出来るだけ、業務の中でも意見を拾えるよう、傾聴に努めている。。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	膝を突き合わせ、面接する時間は不足。問題発生時、全員に声をかけ、思いを傾聴。	○	新人等は定期的に面接が出来ているが、短期目標にしたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当法人の相談員からの紹介、家族からの相談、受付から利用にいたることが多いので、事前に施設を見学していただき、話をよく聞くようにしている。又他のサービスを利用されている場合は面会の場を設け、職員各自、入居当初の混乱を少しでも緩和する為、なじみの関係をつくるようにしている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの理念、現状を説明し、困っている事、家族の思い、希望をよく傾聴し、今置かれている状況を理解し、改善に向けての助言をしていく様に働きかけている。行事などにも参加していただき、信頼関係ができる様努めている。		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人に居宅支援事業所があり、担当者との話し合い、相談を行い、最良の方向性を検討している。日頃から同業者との連携や情報交換を行っている。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は行っていないが、家族や担当スタッフとの連絡を取り合い、相談しながらお茶や、行事に誘ったり、管理者職員が自宅や病院を訪問、面会するなど、柔軟な対応をとり、サービス利用を開始している。地域密着型サービスとなり、利用者の方が顔なじみであったり、管理者も地元でほとんどの家族、利用者と面識があり、柔軟に援助ができる。	○	本人、家族了解のもとで、月1回のバスハイクなどにも参加していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が充実した日々を送っていただく為、介護する、介護されるではなく、人生の先輩であることを常に念頭におき、尊敬の気持ちをもって、入居者から学ばせていただいているという姿勢を心がけている。得意とされているところ、趣味をいかした分野で、能力を発揮していただくようにしている。	○	常に相手のことを大切な存在と思い、声かけしながら相手の心に向き合っていける支援を目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	面会時など入居者の生活歴や家族の思いや願いなど、話せる機会を持つ。弘医荘だよりで健康状態、生活全般ケアプランへと断る報告をし、常に本人を身近に感じていただけるよう支援している。家族には認知症を理解していただけるよう、働きかけている。	○	利用者の誕生日には家族にも参加していただき、他行事等にも参加していただけるよう、支援している。
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族に対する思いなど、機会あるごとに連絡をとりながら相談している。面会時なども本人と家族の時間を大切にし、よりよい関係が築けるよう支援している。家族に年賀状を書かれたり、手紙、電話をかけられたり、つながりを継続できる支援を行っている。	○	家族との時間を大切にしてください為、外出、外泊など支援している。
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問など快く受けている。家族、知人、思い出の場所(実家、墓参り)などの話をされる時は、ゆっくり話を傾聴し、家族の方とともに、相談しながら面会、外出の支援をしている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格、相性等それぞれ把握し、孤立することがないように心がけている。入居者同士の優しい声かけ、いたわり支え合っている関係が多くみられ、その関係を大事にしている。すべての職員が共有できるようにしている。	○	思いのままのストレートな言葉に、傷つけられたり、難聴のため意思疎通が困難で誤解を招かれたり、孤独感を多く感じられてる利用者もみられ、職員はさりげなく間に入り、誤解、不安をもたれないように支援を努めている。
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院による退居がほとんどである。入院されてもアセスメント、情報提供を行い連携をつないでいる。本人の面会に行ったり、家族の相談も受け入れ大切にしている。一時期、入院されていた入居者、家族の強い希望で、再度グループホームへ入居されている方もおられる。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志疎通が可能な方は話を傾聴することで、その人の思いに共感するよう努めている。困難な方については、日々の行動や表情から希望、意向を把握するように努めている。	○	難病の方で、自宅で家族との生活を強く希望され、本人にとってどこで誰とどのように暮らすことが最良なのか？現在、家族とおかれているいろいろな問題、家族の訴え、思いに相談にのっている。センター方式を活用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、相談員からその人を取りまく情報を頂き、プライバシーを重んじ、今までの本人の生活スタイルをできるだけ維持できるよう、コミュニケーションを多くとり、会話の中から情報を意識的に得るようにしている。	○	センター方式を開いて、職員がその人らしさを大切に支援していくことに努めている。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録を通じて、日常生活、心身状態を把握し、職員間での情報共有に努めている。	○	日勤リーダーが情報伝達し、問題生じれば話し合いの場を設けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや意見、家族、主治医などの意見を聞き、状態の把握に努め、職員間では情報を共有し、個々の状態や希望を反映し、利用者本位の介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者によって様々な変化が生じる事もあるので、その都度見直し、主治医、家族にも相談、説明を行い、現状にあった介護計画作成に努めている。	○	見直しの際、項目ごとに評価を行い、新たな介護計画の作成に努めている。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中で、記録の工夫を積み重ね、個別状況のケアや職員の気づき、エピソードを押さえての記録情報をその都度、共有、実践につながる努力をしている。個別のファイルを用意し食事、水分、排泄、バイタルチェック等、記録(体温表)をいつでも全ての職員が確認できるようにしている。	○	日勤リーダーが申し送り受け、毎日短時間であるが情報を共有するようにしている。申し送りノート、業務日誌を業務に入る前に必ず、確認するようにしている。記録もポイントをしぼり、できるだけ簡素化に努めながら、入居者の方に目を向けるよう心がけている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当法人の病院が隣接しているので、医療連携体制が確立している。入院生活に馴染めない利用者に対し、点滴や夜間のみホームで就寝していただいたり、臨機応変に提供している。ヘルパーステーションとの応援体制ができている。	○	日祭日、夜間帯でも状態に応じて、病棟へ連絡、指示を受け、医師の受診もできている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議などで交流を持ち、地域での支援、援助を受け入れられるよう努力している。デイサービスとの交流のひとつとして、職員、ボランティアの方とも顔なじみの関係である。消防署とは病院、ホーム独自と年2回避難、消防訓練をおこなっている。		
43 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他の事業所と相談員、ケアマネからの問い合わせ、相談は多くもらっている。情報交換は行っている。又、相談することはあっても、他のサービスを利用した事はないのでわからない。		
44 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	健康福祉課、地域包括支援センターには、運営推進会議に毎回出席していただき、様子報告等などで、総合的な相談、家族からも率直な意見、報告されているが、協働とまでは行っていない。		
45 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設であることで、入居希望されている方がほとんどである。定期受診は職員が対応、変化があればその都度家族に報告。24時間体制で受診、往診ができる。歯科も往診連携とれ、皮膚科も院内にある為、好評得ている。	○	以前からのかかりつけ医に受診される時は、(眼科、心療内科など)結果など報告していただくようにしている。定期的な健康診断を行い、場合によっては主治医、家族、看護部長と面談を行っている。
46 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談、受診できる医療機関がある。受診時、職員が同行したり、情報提供し指示や助言がもらえる。時間帯の配慮もできる。		
47 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人、医療機関の看護部長が毎日ホームに来られ、日常の健康管理等、相談、医療活用の支援を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病棟との情報交換で状態把握に努め、家族との連携を取り合って、早期退院が出来るよう支援している。	○	他の医療機関へ入院されてもお見舞いに出かけたり、情報交換、状態把握などソーシャルワーカーと共に支援している。
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の契約の際、重度化した場合の対応について、本人、家族の意向を伺い、看取りに関する説明、同意をいただいている。又重度化した場合、可能な限りホームで対応、医療的な処置が必要になった場合、家族、主治医と相談方針を共有している。		
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者がより良く日々を送って頂く為に、主治医と共に家族、職員と今後の変化に備えて話し合い連絡を取っている。できる限り職員は、面会に行き馴染みの関係で少しでも安心、やすらかに日々をすごしていただけるよう支援している。		
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどが当法人の医療機関への入院での退居である。家族、本人、病棟との話し合い情報交換を行い、相談しながらダメージが最小限になるよう努力している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にもとりあげている「入居者の人間性を尊重し」誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ、対応は全職員心がけている。個人情報、守秘義務厳守は徹底して行う様、記録物は管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望を表せるよう、日常生活の中でゆっくり過ごす時間を通じて、話を聞いたり、声かけし、本人が選びやすい場所作りに努めている。意思表示の困難な方、難聴の方など、利用者に合わせて声かけし、表情を読み取ったりホワイトボード、メモ紙にて筆談している。	○	「出来るのにしてないこと」「やりたいのにやれてないこと」など少しずつ個々の可能性を見出していけるよう努力する。
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先になってることも見受けられるが、一人一人のペースを把握し、自由に自分のペースで生活出来るよう、日々その人らしさが出せる様、環境作りなどにも配慮しながら努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほとんどの利用者の方が、月2回の移動美容車を利用され、髪型、長さで希望を言われている。2名の方は昔からの馴染みの美容室へ、家族の方と外出を楽しみにされている。外出時は化粧をされている。	○	時々家族の方で、顔そり、化粧とボランティアでやっていただいている。
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人の栄養士の調理を摂取しているが、職員と入居者が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。週に一度の調理の日には、入居者の好みなどを献立に入れ、できる事を手伝ってもらっている。畑で採れた野菜などは入居者と一緒に調理し、一品追加の食事を飾っている。	○	好き嫌いのある入居者には、栄養のバランス等声かけしている。食後のタッパ拭き、メニュー記入など進んでお手伝いされている。入居者とのゆとりの時間を作る。義歯使用の方には大きさ、固さなど気をつけ、糖尿病の方には糖分等気をつけている。
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、タバコは提供していない。朝のモーニングティなどお茶の時間には提供できる。飲み物の中から選んで頂いている。自由に飲めるお茶も準備し、手作りのおやつなども作っている。梅サワー、梅酒、杏酒なども作っている。おやつにパンを希望される為、週一回移動販売車にて選んでいただいている。		
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を活用しながら排泄パターンを把握し、さりげない声かけ介助を行っている。失敗があっても、自尊心を傷つけない様支援、工夫をしている。安楽な排泄ができるよう夜間はP-トイレも部屋に準備している。(数名)紙パンツ、パット類も本人にあわせ検討、排泄パターンを知る事により、紙パンツより布パンツへと努めている。	○	トイレ環境にも気を配っている(カーテン、物音、清潔感、高さなど) 紙パンツ、紙オムツ、尿パットなど体調や昼、夜等で使いわけをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に午後入浴になっているが、その方のパターンにあったタイミングで声かけ支援をしている。(入浴法も) 一緒に入浴準備を行い、スムーズに入浴できるよう又、入浴中もコミュニケーションをとり、楽しく入浴できるようにしている。職員と入居者は一対一の対応だが、時には気のあった利用者2名で入浴を楽しめることもある。ゆっくりと入浴されることによって、その人その人の思いを話され、知ることができる。	○	異性職員が介護を行っている場合、入居者からの心情、羞恥心の声があったが、なじみの関係ができ、チームプレイ等によって、一人一人にあわせた入浴支援をしている。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中は活動時間を作り、昼夜のリズムが安定するよう心がけている。昼間はその人の体調に合わせ、お昼寝される方、談話室にて職員と過ごされる方と、自由にすごしていただいている。気持ちよく安眠できるよう寝具、居室等の照明を整えている。就寝時間は大体決まっているが、ゆっくりと談話室でテレビを楽しまれる方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々の得意とされること、好きな事などを把握して調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除、花植え、野菜植えなど本人が必要とされることを感じて、張り合いがもてる支援をしている。	○	各々それぞれの持ってるものを見出し、自分の居場所を感じていただき、生活にいかせるよう支援している。毎食、食事のメニューをホワイトボードに書いていただいている。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名程、金銭管理をされている。お金が無くなったという訴えはないが、職員が買物頼まれ、お金の大事さ、必要性をその都度支援している。バスハイク、調理、おやつ、買物、品物選び、支払いと頻度は少ないが、さり気なく支援、援助している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の年令的又、下肢筋力低下により散歩に行く頻度は少なくなっているが、天気の良い日は全員で散歩に出かけたり、中庭散策、花摘みなどしている。職員、入居者の希望でドライブに出かけることもある。毎月のバスハイクも楽しみにされているが、年令的、体調面考慮している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との食事、祝事、墓参り、買物と外出の機会が多くみられる。月一回のバスハイクも出きるだけ入居者の希望を取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば気兼ねなく利用していただいている。電話することによって、安心される方もいらっしゃるので、スタッフと共にかけている。携帯電話を持ってある入居者もおられ、自由にかけてある。暑中見舞いと年賀状を出すための支援を行っている。		
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただける様に心がけている。談話室や居室で気軽に過ごしていただけるように配慮して。訪問時一緒に写真をとったり、又、入居者が長い方など、他の入居者の家族とも顔なじみになられ、なごやかな雰囲気である。	○	家族の方で入居者の方が、一緒に歌を唄うのを楽しみにされたり、眉カットしていただいたりと、馴染みの関係ができている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、勉強会を積極的に行い、職員全員に身体、言葉での拘束をしないケアを実践徹底している。		
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の意味で施錠しているが、日中は全く施錠していない。戸外に出られた時は一緒に散歩したり、気分転換をはかりながら見守りしている。一人一人の状態把握に努め、日々自由な暮らしを支援している。		
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員全員が所在を確認、声かけし、安全確認している。声かけ見守りにて状態を把握し、いつもスタッフの視野に入れ配慮している。	○	戸外にでられた場合など、携帯電話で情報を共有し、居場所確認している。
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせ必要なものは、家族に理解を求め持参されている。見えない工夫(薬、洗剤、刃物等はスタッフルーム内と保管)を行い、危険防止に努めている。使用される時は職員が見守り、安全に取り組む支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの研修や勉強会を実施、職員全員が理解し、事故防止に取り組んでいる。事故、ヒヤリハット報告などもミーティングを行い、再発を防ぐ努力をしている。	○	防災訓練を定期的に行っている。行方不明時にそなえて、入居者一人一人のカード作成している。
72	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期段階において、主治医、看護部長に報告、指示を受けている。マニュアルを作成し、内容を理解、研修会にも参加している。		
73	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	緊急連絡網作成し、提示、全職員には緊急招集等行っている。(附帯事業所と合同訓練参加) 避難訓練、消火訓練と定期的に消防署立会いのもと、法人全体で行っている。運営推進会議の中で、災害時の協力依頼も行っている。	○	運営推進会議の中で避難訓練を行った。災害時、地域の方の避難場所に母体病院になっている。
74	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	月一回のミーティング、毎日の申し送りで予測できるリスクは細かく報告している。家族など来荘時、日々の暮らしぶりを伝え、意見や相談を受けている。	○	院内の月一回、リスク委員会に報告、提出。ホーム内で起きた事実を報告している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、状態観察、早期発見に努め、異常時は看護部長に報告すると共に、職員間でもお互い報告し、情報を共有、主治医に連絡受診、家族へと報告、早めに対応している。		
76	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師の指示を受け、服薬中の説明書をファイルにて全職員、確認できるようにしている。情報、指示は申し送りで共有している。受信記録ノートや体温表に受診内容を記入し、個人別に内服表に貼布している。	○	内服処方時、必ず中身を確認するよう、スタッフ全員で徹底している。内服時には必ず、名前、日時を声にして確認、徹底している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体温表、日常生活記録などを活用し、排便コントロールに努めている。離床、運動、散歩を心がけ、腹部マッサージ、水分補給と随時声かけしている。排便の有無に対して神経質になれる方もおられるので、話をゆっくり傾聴し気分を落ち着かせる。	○	排便確認が困難な方もおられるので、臭気等で確認することもある(行動確認) 下剤をかけ、様子観察する方もいる。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の方は毎晩一人一人ケースに保管し、週一回はポリデント洗浄行っている。起床後、食後の歯みがきと自立習慣化されている方、誘導、声かけ、見守り必要な方とおられるので、一人一人口腔状態を力量に応じて支援している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士が作成した、バランスのとれた献立に基づいて提供している。主治医、栄養士との情報交換もできている。体温表に毎日の総摂取量を記録、体調、体重の増減、食事量も個々にあわせ確認し、水分摂取量、スタッフ全員把握できるようにしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、朝倉介護保険事業者協議会主催のスタッフセミナー、院内研修会にも積極的に参加している。外出後の手洗い、うがいなど徹底的に実行している。面会時、玄関に手指消毒を準備、声かけしている。	○	インフルエンザ予防接種は入居者、スタッフ全員接種している。スタッフは毎月一回、検便提出している。仕事でのマスク着用。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為に、台所などの調理器具はこまめに洗浄、除菌スプレーなど常に清潔を心がけている。毎食後の食器は乾燥機にかけ、まな板、布巾など日光にあてている。週一度の調理、日頃のおやつ作りと賞味期限を確認し、新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	奥まった場所にある為、看板等でわかりやすいようにと工夫している。玄関回りには花を植えたり、季節感を出して、あたたかな雰囲気づくりの工夫をしている。中庭には野菜を作り、季節折々の花が咲き、利用者も自室の花瓶に飾られたり、院内のサービス機関へ訪問プレゼントしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が過ごされる談話室には、季節の花、手作りカレンダー、入居者の手作りの作品など置き、気軽に入れる雰囲気、家庭的な暖かさを心がけている。TVの音量、音楽と気をつけ、太陽の陽射しがレースのカーテン越しに全体的に入るよう工夫し、ゆったりくつろげるソファを置き、スタッフとの会話、体操、レクリエーションとすごしていただいている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを置き、自由にすごせる場所としている。中庭へも自由に散策できるよう、スロープ、手摺りとベンチを置いたり、玄関、廊下の奥にも椅子を置き、一人一人の時間を持てるよう工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用されていた家具、生活用品の持込みは、少ないが、自作の陶芸作品、写真、季節の花や、20数年前に描かれた掛軸(慈母観音像)、色紙などで、暖かみを出す工夫をしている。得意とされる趣味(編み物、絵)を家族の協力のもとに、張りのある生活を支援していただいている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的にこまめに換気、湿度調節を行っている。温度計、湿度計と設置している。着衣の調節も気をつけ、声かけ支援している。	○	玄関、トイレ、汚物入れなど消臭剤を設置し、気になる臭いや排泄物臭などに気をつけ、配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで、クッション性のあるフローリングを使用している。トイレ、廊下、浴室、外回りなど必要な場所には手摺りを設置している。ベッドにはサイドレールを設置している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事前後のセッティング、後片付け、洗濯物干し、掃除など自分の得意とされる分野の中で、積極的にやっていただいている。各個室、共同場所などわかりやすい表記をしている。時々、自室やトイレなど迷う場所も見られるが、さりげなく声かけしながら、混乱や失敗を防いでいる。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム、院内の敷地内にある藤棚の下にベンチを置き、いつでも散歩をかね、皆様の居心地のよい場所となっている。中庭に花畑、畑とあり、ベランダ、居室の窓からながめ、摘んできて調理したり、玄関、洗面所、居室と花を飾られている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
		○	職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・問い合わせから契約にいたる段階で、家族の方の希望、思いはほとんどの方が健康を望まれ、医療併設のグループホームであること、24時間体制で医療連携がとれていること。・ボランティアの方による週1回の陶芸教室、展示会と5年目であるが、入居者の方も毎回楽しみにされ、熱心に取り組まれている。自分の力、思いを発揮し、発表にいたるまでのことが、いろいろな面で、日常生活の中で生かされている。・理念を基に、地域の中で、その人らしさを大切に支援している。・グループホームのまわりが田畑が多く、入居者の方も自然な環境の中で生活している。